

最初のお話であります。

今年に入ってからのものでありますが、大阪駅の近くで巨大な鋼鉄製のパイプが地中からせり上がってくるという出来事がありました。その高さは十メートルを超えたということでもあります。ちょうどその上を高架の道路が通っていましたが、幸いぶつかる寸前で止まったということでもあります。私も映像を見て本当にびっくりしました。

ここでは、地下に雨水をためるための工事が行われていたということでありまして、このせり上がってきたものは、地下の工事現場に土砂が流れ込むのを防ぐためのものだったということでもあります。それが、想定を上回る地下水の圧力によって押し上げられてしまったということのようでもあります。

ここで行われていたのは、都市に降った雨を一時的に地下にためまして、そこから下水道に流すための工事です。この付近におきましては、かつて下水道の能力を上回るような雨が降りまして、道路が冠水するなどの被害が出たということでもあります。

この辺りは大阪の経済の中心でもありますから、もし大雨によって浸水するようなことがありますと、その影響は広い範囲に及ぶことになります。

この工事が順調に進むことを祈りたいと思います。

ます。

大雨への対策として、地下に雨水をためるための施設は各地で整備が進められています。東京におきましても、中小の河川からの洪水を防ぐ目的で大きなトンネルが造られています。このトンネルの長さは十キロ以上に及びます。ここにためられる水の量は、小学校のプールで計算しますと、四千八百杯ほどになるといふことであります。

同じように、大きなトンネルが埼玉県にもあります。このトンネルが建設された地域は、幾つもの大きな川に囲まれています。しかも、土地が低くて水がたまりやすい地形になっています。そのため、洪水の被害を何度も受けてきました。しかし、このトンネルの完成によりまして、洪水の被害を大きく減らすことができたということでもあります。

このトンネルは、地下五十メートルのところにあります。直径十メートルのトンネルが六キロ以上にわたって続いているとのことでもあります。

このところ、気候変動の影響でしょうか、雨の降り方が激しくなってきたように感じます。各地で洪水の危険性も高まっているように思います。ここで紹介したような設備が有効に機能し、少しでも被害が減ることを期待したいと思います。

次のテーマに移ります。

海外から日本にやってきた観光客の数が昨年は過去最高を記録したという報道がありました。それを見てちよつと気になったことがあります。それは、こんなにたくさんの方が何に魅力を感じて日本に来るのだろうかということでもあります。

そこで、幾つかの資料に当たってみたのですが、ありますが、そこで目についたのが、日本に來たら何をしたいかというアンケートであります。それを見ますと、トップは日本食を食べるといふことであります。

では、なぜ日本食に魅力を感じるのだろうかということでもあります。ほかの資料も見てみますと、健康志向だからということでもあります。か、職人のわざに感動したというようなことが挙げられています。まさに、職人さんが目の前で握るすしなどはとても魅力的なものなのだと思います。

そのほかには、その土地でしか食べられないものというのも挙げられています。ここには、いわゆる高級な食ばかりではなくて、庶民的な食べ物も含まれています。

日本食に続いて、日本でしたいことの二番目はショッピングであります。これも我々が普通に買うようなものが魅力的に映るようでありまして、コンビニでいつでも買えるようなもの

が並んでいます。

もう一つ、ショッピングに関しまして、海外からの観光客が日本の中古品に関心を示しているというところを取り上げたいと思います。

最近読んだ新聞記事によりますと、あるフリーマーケットの会場に行ったところ、来場者の半分以上が外国人だったそうであります。また、古本屋街でありますとか、中古のレコードを取り扱っている店でも外国人の姿をよく見かけるといふことであります。その理由として、日本の中古品は丁寧に扱われてきたので質がいいからだということが挙げられていました。

さて、もう一つ紹介しておきたいことがあります。これは個人の方がネットに上げているものでありますけれども、日本に来る観光客にリピーターが多いということに触れた上で、なぜ何度も日本に行くのかと聞くと、よく分からないけれども、また行きたくなるという答えが返ってくるというのであります。また、ある人は、日本には分からないことがたくさんある、だから行きたくなると答えたということでもあります。

彼らの言う分からないことというのが、どうも日本のありのままの姿を指しているようにも思われます。皆さんはどう思われますか。

最後に、食に関する話題を取り上げたいと思います。

たこ焼きだと思つて買ってきたタコが入っていないかった。これはタコを入れ忘れたわけではありません。ほかのものが入っていたということでもあります。その背景にあるのがタコの価格が大きく上昇していることであります。円安の影響はもちろんありますが、それ以外に、海外でタコの需要が増えているということももう一つの要因として挙げられています。これまで敬遠してきた欧米の人々がタコのおいしさに気づいてしまったのではないかというような話をする人もあります。

一部のたこ焼き店では、タコの代わりになるものを何とか見つけようということで、いろいろなものを試しているそうでもあります。そんな中から、若い人たちの間で評判になるものも出てきているということでもあります。ちなみに、エビマヨなどはいかがですか。

同じような話は、北海道の料理として知られるジンギスカンでも聞かれます。主に使われてきたのは羊の肉であります、その多くを輸入に頼ってきました。海外の天候不順による影響に円安も加わりまして、その価格もまた上昇しています。

ここで代わりに使われるようになったのは豚肉や鳥肉ありますが、そればかりではありません、鹿でありますとか熊の肉を使う店も出てきているということです。

意外と輸入物だと気づかないものに魚があります。特に日本の近海で捕れるものにその傾向が強いようでありまして、実はサバもその一つであります。定食屋などで提供されるものの多くが輸入物だということでもあります。

こちらも価格が上昇していることから、これに対応するため、養殖に取り組み始めた大手のチェーン店もあると聞きました。また、このチェーン店では、水揚げが少なくてもあまり流通していない魚の商品化にも取り組んでいるということでもあります。

今、国際情勢は不透明さを増しています。これからどういふ影響が出てくるか、とても気になるところであります。

特に心配されているのが、肥料の価格がどうなるかということでもあります。日本は肥料の原料のほとんどを海外に依存しています。そのため、肥料価格の上昇は避けられないだろうと思われまふ。それがそのまま農作物などの価格の上昇につながっていくのか、あるいは何らかの方策によってその影響を抑えられるのか、注意深く見守っていく必要があるだろうと思います。

(丁)